

# 世界のあしたが見えるまち つくば

自治体名：茨城県つくば市(2018年度選定)

<b>1. 地域の特徴と課題及び目標</b>	都心や海外からのアクセスが容易で、筑波山などの豊富な自然環境に恵まれている。また、多くの大学・研究機関が集積し、豊富な国際的人材を擁している。2005年のつくばエクスプレス開通後は人口増加を続ける一方、周辺地域における人口減少や少子高齢化、市内での格差拡大や子どもの貧困などの課題が生じており、日本の縮図といえる状況である。「世界のあしたが見えるまち」の実現に向けて市民とともに課題解決に取り組んでいく。	<b>2. 関連するゴール</b>	
<b>3. 取組の概要</b> (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	SDGsに関する取組を市内で行う企業・団体・個人を「つくばSDGsパートナーズ」会員として認定し、市や会員の取組の周知や地域内での浸透を図ることで、会員間の自律的な連携ネットワークを構築し、そのネットワークを活用して次の3側面からの統合的な取組を実施する。経済面(地元の強みを活かした地域経済活性化)では、地元農業の振興や科学技術を活用した新たな産業創出などを図る。社会面(子どもの貧困問題の解消)では、「つくば子どもの青い羽根基金」を設置、集まった寄附を活用し、貧困家庭における子どもの学習支援事業を実施するなど、貧困の連鎖を断ち切るための取組を進めている。環境面(循環型社会の仕組みづくり)では、地産地消を促進するための啓発活動などを行う。		
<b>4. 自治体SDGs推進等に向けた取組</b>	<b>6. 取組成果</b>		
<ul style="list-style-type: none"><li>■つくば市未来構想・戦略プラン 市の最上位計画にSDGsを盛り込み、全施策がSDGsの理念に基づき実施される体制を構築</li><li>■つくばSDGsパートナーズ<ul style="list-style-type: none"><li>① つくばSDGsパートナー講座 市民にSDGsを普及啓発するとともに会員に認定</li><li>② つくばSDGsアワード 市内の住民・事業者からSDGsの優れた取組を募集・表彰</li></ul></li><li>■その他の取組<ul style="list-style-type: none"><li>① つくばスマートシティ社会実装トライアル支援事業 科学技術の実証実験</li><li>② つくば子どもの青い羽根基金 子どもの学習支援や居場所づくり</li><li>③ つくばスタートアップパーク 新規創業者支援による産業創出</li><li>④ 地域資源メネタイズ事業 周辺市街地活性化</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■つくばSDGsパートナーズ(2019年4月設立。個人会員491・団体会員183)<ul style="list-style-type: none"><li>① 講座を4回実施(障害者の社会参加・自立支援、異常気象と防災対策、筑波山地域ジオパーク、生物多様性)</li><li>② 44件の応募から6件を表彰(多国籍子育て支援、コンポスト、リユース、食品ロス)</li></ul></li><li>■その他の取組<ul style="list-style-type: none"><li>① 21件の提案があり、個別教育支援システムに用いた発達障がいのある子の個性に合わせた教育支援やヘッドマウント型3Dスキャナーを用いたインフラ設備計測作業の実証実験など5件の実証実験を支援</li><li>② 約1,540万円の寄附が集まり、学習支援(18か所、365人)や居場所づくり支援事業に活用。子どもの未来支援のための事業を積極的に推進</li><li>③ つくばスタートアップパーク利用者の中から累計45社が創業</li><li>④ 地域づくり人材の発掘・育成を目指すR8シン・アイデアソンには38名が参加し、周辺市街地で地域住民とともに活性化アイデアを実証。チャレンジショップでは周辺市街地で7店舗が出店</li></ul></li></ul>		
<b>5. 取組推進の工夫</b>	<b>7. 今後の展開策</b>		
<ul style="list-style-type: none"><li>・専用ポータルサイトやメールリストの活用により会員の取組を積極的に外部発信し、会員間の連携が生まれやすい環境を整備した。</li><li>・オンラインだけでなく、対面やハイブリッド型で講座や交流会を実施した。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・個人だけでは解決が困難な社会課題に対応するため、パートナーズ団体会員を対象とする交流会を複数回実施し、団体会員同士の連携を強化していく。</li><li>・団体会員の事業内容やSDGsの課題を理解し、会員同士がwin-winな状態になるような連携の好事例を創出していく。</li></ul>		
<b>8. 他地域への展開状況</b> (普及効果)	つくばスーパーサイエンスシティ構想、庁内におけるICTを活用した業務改善の取組、データに基づく政策立案EBPMの推進について、島根県松江市からの視察を受け入れた。		

# SDGs未来都市進捗状況結果報告シート

2018年度選定

茨城県つくば市

2024年9月

SDGs未来都市計画名

第2期 つくば市SDGs未来都市計画（2021～2023）改訂版

## 茨城県つくば市 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

## (1) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値		2023年		2030年（目標値）		達成度 （%）	第3期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
		年	数	年	数	年	数		
1	2015年度以降の産業競争力強化法に基づく新規創業者数 【8.2, 9.5】	2020年	420 社	2024年3月	871 社	2030年	1,111 社	65%	順調に進捗しており、引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
2	学力格差の解消に向けたこどもの学習支援者数 【1.2, 1.3, 2.1】	2020年4月	236 人	2024年3月	365 人	2030年	600 人	35%	順調に進捗しており、引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
3	自己肯定感を持つ児童生徒の割合 【4.1】	2021年	75.5 %	2023年	80.3 %	2030年	80.0 %	107%	目標が達成できており、継続して児童生徒の自己決定を促すような機会・場を教育活動に多く取り入れていく。 引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
4	地域や社会に目を向ける児童生徒の割合 【4.1】	2021年	50.7 %	2023年	72.02 %	2030年	55.0 %	496%	目標が達成できており、継続して児童生徒が地域や社会と関わりをもつことのできる体験活動等を行っていく。 引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
5	地域包括支援センター設置数 【10.2】	2020年10月	7 か所	2024年3月	7 か所	2030年	8 か所	0%	順調に進捗しており、継続してセンターの設置体制の検討を行う。 引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
6	市全体人口に対する居住誘導区域内の人口割合 【11.1, 11.2, 11.a】	2015年	53 %	2020年	55.7 %	2035年	58.0 %	51%	順調に進捗しており、引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
7	「低炭素社会の推進」に係る市の取組への満足度 【7.2, 7.3, 12.5, 12.8, 13.1, 13.2】	2020年3月	20 %	2024年3月	19.1 %	2030年	30.0 %	-5%	目標達成度が低いため、環境教育プログラムを継続して実施するとともに、市の取組について、脱炭素先行地域を発信源として効果的に広報を行うことで、地球温暖化対策について、市民が自分ごととして捉えられるようにする。 引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。

## (2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値		2023年 実績		2023年 目標値		達成度 （%）	第3期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
			年	数	年	数	年	数		
1	① 市民自らが社会課題解決に向けた取組を実施する	つくばSDGsパートナーズ会員が、SDGsに関する社会課題の取組に参加している割合	2019年12月	38.1 %	2023年12月	60.9 %	2024年	43.9 %	393%	目標が達成できており、継続して講座やホームページによる広報活動を実施し、会員を増やすだけでなく、実際に社会課題の解決に取り組む会員を増やしていく。 引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
2	② つくば市におけるSDGs(持続可能な開発目標)に関する認知度向上	SDGsに関する認知度	2019年12月	34.9 %	2023年8月	88.7 %	2023年	45.0 %	533%	目標が達成できており、引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
3	③ I 魅力をみんなで創るまち	パブリックスペース活用の取組数	2020年	3 取組	2023年4月	27 取組	2023年	27 取組	100%	目標が達成できており、引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
4		周辺市街地における地域民間企業・NPO等の新たな協働件数	2020年8月	5 件	2024年3月	26 件	2024年	16 件	191%	目標が達成できており、過去に市主催のイベントに参加した活動人材の定着やさらなる発掘を行いつつ、活動する場を構築していき、地域づくり活動への支援を継続して行っていく。 引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
5		地産地消レストラン・販売店数	2019年	45 店舗	2024年3月	160 店舗	2024年	150 店舗	110%	目標が達成できており、2024年度の目標値を150店舗から165店舗に上乘せする。引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。

## 茨城県つくば市 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

No	取組名	指標名	当初値		2023年実績		2023年目標値		達成度(%)	第3期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
			年	値	年	値	年	値		
6	③Ⅱ 誰もが自分らしく生きるまち	公共交通満足度	2019年	36.1%	2023年12月	41%	2023年	37.0%	567%	目標が達成できており、継続してダイヤ見直しやバス待ち環境の向上など利用者の利便性向上策を講じる。 引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
		バス停圏域(500m)カバー人口の割合	2020年	83.4%	2023年10月	79%	2023年	84.0%	-683%	目標達成度が低いため、バス運転士の確保に向けた支援策の実施などにより運転士を確保し、人口推計を踏まえた公共交通サービスの提供を検討する。 引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
		地域包括支援センターへの延べ相談件数(年間)	2020年3月	8,823件	2024年3月	9,072件	2023年	11,400件	10%	順調に進捗しており、引き続き関係機関との連携を強化するとともにセンターの相談援助技術の向上を図る。 引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
9	③Ⅲ 未来をつくる人が育つまち	子どもの学習支援等における空き教室の活用数	2020年3月	3か所	2024年3月	6か所	2023年	5か所	150%	目標が達成できており、引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
		つくばスタイル科(ESDを含む)の実施学園数	2020年	16学園	2023年	17学園	2023年	16学園	106%	目標が達成できており、引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
		つくばSTEAMコンパス事業の延べ参加者数(年間)	2020年3月	495人	2024年3月	437人	2023年	200人	219%	目標が達成できており、引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
12	③Ⅳ 市民のために科学技術をいかすまち	技術系の新規創業者数(期間累計)	2020年8月	1件	2024年8月	48件	2020年～2024年	50件	96%	順調に進捗しており、つくばスタートアップパークの運営を中心とした環境整備や起業マインド醸成の取組を継続して行う。 引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
		Society5.0社会実装トライアル支援事業採択件数	2020年12月	20件	2024年3月	36件	2024年3月	35件	107%	目標が達成できており、継続して地域課題解決に資する提案募集の周知を行う。また、採択事業者が実施した時期に実証できるよう、事業運用を行う。 引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
		国際戦略総合特区推進事業連携企業数	2020年3月	616件	2024年6月	1,265件	2024年3月	1,181件	115%	目標が達成できており、県やつくばグローバルイノベーション推進機構と連携し、技術シーズや産業界のニーズのマッチングによる事業化・産業化支援を継続して行う。 国際総合戦略特区（第3期）指定が令和7年度末までである。今後の方針について国・県と協議を行う。 引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
15		利用しやすいオープンデータ件数	2020年9月	123件	2024年3月	192件	2024年	150件	256%	目標が達成できており、引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。
16		つくば市低炭素(建物・街区)ガイドラインの認定住宅数	2019年	67戸	2024年3月	465戸	2024年	342戸	145%	目標が達成できており、引き続き独自計画の「つくば市未来構想・第2期つくば市戦略プラン」において進捗を確認する。

## 茨城県つくば市 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

## （3）第2期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

## ●特筆すべき事業内容

多くの指標で目標を達成することができた。特に、新型コロナウイルス感染症に伴う活動の制限により停滞していた取組については、制限緩和の影響もあり順調な進捗、目標達成につながった。  
また、(2)自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況、指標2「SDGsの推進に関する認知度」において、88.7%と高い数値で目標を達成できた。これは、早くからSDGsをつくば市政に取り入れ市民への普及啓発に努めたことに加え、全国的にも、テレビやインターネットでSDGsが取り上げられる機会が増加したことが認知度の向上につながったと考えられる。

## ●成果

## (1) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組

指標4「地域や社会に目を向ける児童生徒の割合」において、目標を達成できた。これは新型コロナウイルス感染症に伴う活動の制限が少しずつ緩和されたことや、コミュニティスクールの導入が着実に進んでいるためと考えられる。継続して児童生徒が地域や社会と関わりをもつことのできる体験活動等を行っていく。

## (2)自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

新たに4つの指標で目標を達成することができた。特に指標14「国際戦略総合特区推進事業連携企業数」において目標を達成できたのは、つくばグローバル・イノベーション推進機構（TGI）による技術相談のワンストップ対応により、企業からの共同研究や製品素材等に係る相談を関連研究機関へと円滑につなげられたことによるものと考えられる。引き続き、県・TGIと連携し、技術シーズや産業界のニーズのマッチングによる事業化・産業化支援を行う。また、国際総合戦略特区（第3期）指定が令和7年度末までであるため、今後の方針について国・県と協議を行う。

## ●課題

## (1) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組

ほとんどの指標が目標達成、順調に進捗しているが、一つの指標に遅れがみられる。  
指標7「『低炭素社会の推進』に関する市民の満足度」の進捗が遅れているのは、地球温暖化による市民生活への影響が顕著になり、対策が喫緊の課題となっているものの、現実として地球温暖化への歯止め・対策が追いついていないことが原因であったと考えられる。そのため、環境教育プログラムを継続して実施するとともに、脱炭素先行地域を発信源として効果的な広報・啓発活動を実施する。

## (2)自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

指標7「バス停圏域(500m)カバー人口の割合」の進捗に遅れがみられる。これは、既存バス停の500m圏域外において新規の宅地造成が進んでおり、圏域内の人口増加を上回るペースで圏域外の人口が増加しているため、相対的に圏域内人口の割合が低下していることが原因だと考えられる。また、現状のバス路線を変更するには既存バス利用者の利便性低下が、新規路線を運行するにはバス運転士不足がそれぞれ問題となる。今後はバス運転士の確保に向けた支援策を実施し、引き続き地域の人口推計を踏まえながら適切な公共交通サービスを提供していく。

## ●今後の展望

独自計画の「つくば市未来構想・第2期戦略プラン」は2024年度が計画最終年度となることから、2025年度を初年度とする新たな戦略プランの策定に着手している。新たな戦略プランにおいて、目標を達成した指標については目標数値の見直しを行い、進捗が遅れている指標については対応策を実行し、引き続き進捗を確認する。

## （4）有識者からの取組に対する評価

- ・経済、社会のほとんどの取組で、目標を上回る成果を上げていることは高く評価される。
- ・当初掲げたほとんどの指標を達成しているのは大きな成果である。しかし、依然として三側面の統合的取組には見えない点が課題である。